

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 単元について

(1) 一般的特性

【機能的特性】

- ・ 基本的な支持跳び越し技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びに触れることのできる運動である。

【構造的特性】

- ・ 回転したり、指示したり、逆位になったりする運動である。
- ・ 基礎的な技をより高めたり、できそうな発展技に挑戦したりする運動である。

【効果的特性】

- ・ 様々な動きを通して、運動感覚や巧緻性、調整力を身に付けることができる運動である。

(2) 児童からみた特性

- 自分の跳び方で跳び箱の高さや距離に挑戦することに魅力を感じる運動である。
- 友達と協力したり、教え合ったり、励まし合ったりしながら、楽しく活動に取り組める運動である。

【関心・意欲を低下させる阻害要因として考えられること】

- ▲ 腕支持で重心を前方に移動することに恐怖感をもちやすい運動である。
- ▲ できる、できないの差が生じやすく、意欲が薄れやすい運動である。

(3) 児童の実態（男子14名、女子12名、合計26名）

診断的授業評価

項目名	Mean (単元前)	評価
たのしむ (情意目標)	14.00	5
学び方 (思考・判断)	11.73	4
できる (運動目標)	12.80	5
まもる (社会的行動目標)	14.38	5
合計得点	52.92	5

栗源小独自アンケート

項目	1 肯定	2 やや肯定	3 やや否定	4 否定
① 体を動かすこと	18	7	1	0
② 体育でできなかったことができるようになったこと	16	8	2	0
③ 運動のポイントやコツを意識	15	9	2	0
④ 運動の仕方を工夫	10	10	6	0
⑤ たずねたり、教え合ったりしている	10	13	3	0
⑥ ⑤は楽しいか	12	9	5	0
⑦ めあてをもって取り組んでいる	12	11	1	2
⑧ 難しい技に挑戦	15	4	6	1
⑨ きまりや規則を守って運動	20	5	1	0
⑩ 準備や後片付けを進んで行っている	17	7	2	0

⑪ 安全に気を付けて運動	2 3	3	0	0
⑫ 体育は好きか	2 0	3	3	0
⑬ 跳び箱は好きか	1 9	3	2	2
⑭ 跳び箱の学習で心配なこと	・怪我をしないか ・着地がちゃんとできるか ・首をひねらないか ・高い段に挑戦するときに、落ちないか ・勢いがついてしまって、転ばないか ・手がすべらないか ・前から落ちないか ・高いところを跳べるか			
⑮ 跳び箱の学習で楽しみなこと、頑張りたいこと	・新しい技が楽しみ ・跳ぶことをがんばりたい ・跳び箱で前転することが楽しみ ・高い6、7段をスムーズに跳べるようにがんばりたい ・5段跳びたい ・高い段の跳び箱に挑戦したい ・着地をがんばりたい ・難しい技をやってみたい			

診断的授業評価では、学び方（思考・判断）の項目で評価が4であった。中でも、「体育で習った運動を休み時間や放課後に練習する」の項目で、半数以上の児童が否定的な意見をもっていた。

栗源小独自アンケートでは、「難しい技などに、挑戦していますか」で否定的な意見が多く見られた。昨年度実施した「跳び箱運動」では、得意、不得意の差が大きく、得意な児童は難しい技に挑戦し、不得意の児童は、恐怖心やできないという意識から、様々な技に挑戦することができなかった様子が見られた。

また、「跳び箱の学習で心配なこと」の中に、高さがある場から落ちること、怪我を心配する回答が多かった。

（４）指導観

○ 自己の課題を見付けるための工夫

技のポイントがわかる連続図を用意し、自分の動画と見比べる時間を確保する。できているところにはシールを貼らせ、自分の課題を明確にする。そのために、ICT 機器を使って技のできばえを確認したり、友達の気付きを聞いたりして、振り返りができるようにする。

また、課題に気付きやすくするために、手の着く位置に目印をつけたり、ペットボトルにゴムをはったものを着地する位置に目印として置いたりして、技に取り組めるようにする。

○ 自己の課題解決に向けて場を選択するための工夫

苦手意識をもつ児童から、発展技に取り組みたい児童までが自己の課題解決に向けて、場を選択しながら活動できるよう、以下の場を設置する。

・マットを数枚重ねた場

考えられる効果 台上前転が苦手な児童が、回転する動きを身に付けることができる。

・跳び箱と同じ幅にラインを引いたマット

考えられる効果 跳び箱で横にそれてしまう児童が、真っ直ぐ回転する前転や速さのある前転を身に付けることができる。

- ・ バランスボールやステージの利用

考えられる効果 首はね跳びに挑戦する児童が、体を反らす感覚を身に付けることができる。

- ・ ソフト跳び箱の設置

考えられる効果 台上前転や首はね跳びを行うにあたって、跳び箱による痛みを心配する児童の恐怖心を軽減し、取り組むことができる。

- ・ 高さの異なる跳び箱の設置

考えられる効果 苦手意識をもつ児童から得意な児童までが、自己の課題にあった高さや踏切板の位置を検討して取り組むことができる。

場を選択し、活動をしている中で、課題解決のために新たな場を設置したいという児童の意見は、積極的に取り入れ、場を変化させていく。

○ 前単元とのつながりを意識した授業展開

前単元「マット運動」では、補助倒立ブリッジ、首はね起きについての学習をした。既習事項を生かし、自己の課題を見付け、解決につながるようにする。そのために、マット運動における体の使い方やポイントとの共通点と相違点に気付かせながら、本単元を展開していく。

3 単元の目標

- 切り返し系や回転系の基本的な技をすることができるようにする。 (知識及び技能)
- 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 台上前転の行い方を理解しているとともに、助走から両足で踏切、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。 ② 首はね跳びの行い方を理解しているとともに、台上前転を行うように回転し、腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きることができる。 ③ 運動のポイントを言ったり、書いたりしている。	① 自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 ② 自分の動きや友達の動きを確認したり、目印等を参考に技の出来栄を友達に伝えたりしている。	① 回転したり、支持したり、跳び箱運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ② 器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 運動する場所の危険物を取り除くとともに、用具の安全を確かめようとしている。

5 指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5（本時）	6	7
0	整列・挨拶・健康観察→準備運動→場づくり→感覚づくりの運動						
	オリエンテーション ・前半の学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・1時間の流れの確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 ・試しの運動	ピタッと着地！ 台上前転をしよう。 ・友達と見合い、自己の課題を見付ける。 ・課題解決に向けて、場を選び練習をする。	大きく！ 台上前転をしよう。 ・ICT機器で振り返り、課題を見付ける。 ・課題解決に向けて、場を選び練習をする。	中間オリエンテーション ・後半の学習内容の確認 ・首はね跳びについて確認 ・安全の約束の確認 ・1時間の流れの確認 ・試しの運動	自分の技を発展させよう。 ・ICT機器で振り返り、課題を見付ける。 ・友達と見合い、自己の課題を見付ける。 ・課題解決に向けて、場を選び練習をする。	発表会	
45	振り返り→整理運動→整列・健康観察→片付け						
知・技			① 観察・学習カード			② 観察・学習カード	③ 観察・学習カード
思		① 観察・学習カード	② 観察・学習カード		① 観察・学習カード	② 観察・学習カード	
態	③ 観察・学習カード			② 観察・学習カード			① 観察

6 本時の指導（5／7）

（1）目標

- ◎ 自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）展開

過程	時配	学習内容と内容	指導（○）・評価（☆）	用具・資料
はじめ	10	1 整列し、あいさつ、準備運動をする。 ・場づくりをする。	○ 児童の健康状態を把握する。 ○ 見学者がいる場合には、状況により指示を出す。 ○ 準備運動を丁寧に行わせ、けがの防止につなげる。 ○ マットの耳や、跳び箱のずれを確認させ、事故の防止につなげる。	マット セーフティーマット 跳び箱 ソフト 跳び箱

		・感覚づくりの運動をする。 ◇両足で踏切り、腰上げ ◇前転 ◇くも歩き ◇バランスボール	○ 「トントントーン」のリズム太鼓に合わせて、タイミングよく腰を上げるよう声を掛ける。 ○ 腰を上げながら、くも歩きができるように声を掛ける。	リズム太鼓
なか	25	2 ねらいを確認する。 自分の技を発展させよう。 ・連続図を用いてポイントを確認する。 3 課題を見付ける ・タブレットを使い、動画を撮る。 ・動画と連続図を見比べ、できているところには学習カードにシールを貼る。 4 ポイントを意識して練習をする。 ・動画で確認したり、同じ場の友達に見てほしい部分を伝え助言をもらったりする。 ・手の着く位置や着地する位置に目印を置き、課題解決につなげる。	○ 前時の学習やマット運動での学習を振り返り、全体でポイントを確認する。 ○ ネームプレートホワイトボードに貼り、自分のめあてが明確になるようにする。 ○ 踏切り→着手→空中→着地がおさまるように撮影をする。 ○ 特に意識しているポイントは何か問いかけ、動画で確認する視点を明確にできるようにする。 ☆ 自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるようにする。(観察)【思・判・表】 自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができていない児童には、課題を見直し、練習の場を助言する。 ○ 自己の課題に応じて場を調整している姿を見取り、称賛や励ましの声掛けをする。	掲示物 ネームプレート タブレット 掲示物 タブレット ペットボトル ゴムシール
まとめ	10	6 本時のまとめをする。 ・本時の活動を振り返る。 ・今日のきらりさんの発表。	○ 最初に撮った動画と、練習最後に撮った動画を見比べ、練習についてや体の動きの変化について振り返る。 ○ 技の向上や取り組みの工夫、友達への声掛けを称賛す	学習カード

		・整理運動、健康観察、挨拶をする。 ・後片付けを行う。	る。 ○ 健康観察を行い、次時の学習の確認をする。 ○ 分担をして、すばやく片付けるように声を掛ける。	
--	--	--	---	--

7 場の設定

